

平成 28 年度 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立34年の歴史と伝統を受け継ぎ、「建学の精神四訓」のもと将来我が国の有益な社会の形成者として、また、世界にはばたくグローバルリーダーとしての育成を目指す。
生徒ひとりひとりを大切に、学問に対する興味・関心が深められる授業が行われ、生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を進める。
生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、「高いレベルの文武両道」の文化を根付かせ、学校行事や委員会・部活動等へ積極的に参加し、自らの意志と努力で中学高校生活の創造を目指す。
生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。

2 中期的目標

- (1) 学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善
文武両道の進学校として成果をあげ責務を果たすためには、生徒が目標に向かって主体的・意欲的に取り組み、学習の理解度・達成度を深めることが重要となる。そのため授業改善を進め、「教師依存型から生徒自立型へ」「大学進学へ向けた授業レベル向上」の意識改革を行う。
- ① 保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施。
 - ② 公開授業・参観、研究授業等を定期的に行い、指導内容・方法の検討を行う。
 - ③ 授業の質を高めるため教材を精選し進学情報リテラシー、キャリア教育の視点を取り入れたティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。
 - ④ ICTを活用した授業の充実を図るために、学習会等の研修を実施し授業改善に取り組む。
- (2) 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備
各学年の現状を的確に把握し、教科指導・学年経営の基軸設定と修正を行う。これまでの教育課程実施上の問題点を整理点検しさらに改善を図る。
- ① 英数特進コース、総合進学の2コースを基にグローバル人材の育成・豊かな人間性の育成の観点から教育課程の改善を図る。
 - ② 教科指導では、進路結果のさらなる充実のために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。
 - ③ 大学入試に関する最新の情報を教職員に周知するとともに、進路行事、補習等の年間行事に反映させる。
- (3) 東海大学、国公立・難関私立大学への進学実績の向上
生徒一人ひとりが高い志を持って進学に臨むことができるよう、授業面・進路指導面から全面的に支援する。
- ① 東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から高大連携を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。
 - ② 最新の大学入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達する。また、センター入試、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。
- (4) 自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル（水準）のスポーツ・文化活動の維持
生徒の学校生活を楽しく生き生きとしたものにするため、各クラブ・委員会などの環境を整える。
- ① 部活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮し、活動時間を保証し活動を改善する。
 - ② 平日、放課後、長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し参加率向上を図る。
- (5) 生徒募集事業と広報推進のための各種事業の充実
充実した生徒募集に向け、地域・保護者等からの本校の教育活動に関する意見・要望を活かす。
- ① 本校の教育活動についての情報近隣地域および各中学校へ積極的に発信する。
 - ② 学校ホームページ、学校通信などにおいて、よりの確かな情報発信に努め、組織的・広域的な広報活動を充実させる。
- (6) 環境・安全・健康に配慮した学校づくり
生徒の心身の健康を維持・促進させるため、環境の整備を図る。
- ① 同窓会・後援会組織と連携して学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。
 - ② 防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価（学校評価）を行う。
 - ③ 教職員・生徒間のコミュニケーションの更なる活性化、カウンセラーなどの関係機関との連携を強化し、安心して学校生活を送れるようにする。
- (7) キャリア教育の充実
- ① キャリア教育プログラムを充実させ、「生きる力（主体性、コミュニケーション能力、協調性）」を養成する。
 - ② 企業インターンワークを実施し、視野を拡大して社会のできごとを理解する力を育み、社会で求められる能力を身につける。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

中等部・高等学校生徒を対象に32項目の学校評価アンケートを実施した。また、中等部保護者を対象には23項目、高等学校保護者を対象には22項目の評価アンケートをそれぞれ実施した。更に中等部教職員・高等学校教職員対にはそれぞれ68・75の項目のアンケートを実施した。以下は、上記中間目標に符合する質問項目とその評価平均点（最高点5.0）推移を示したものである。（ ）内の数字は2015年度から2016年度への変化を示している。

自己評価アンケートの結果と分析 [生徒保護者対象：平成28年12月平成28年12月実施・教職員対象：平成29年1月実施]

学校評価委員会からの意見

(1) 学習指導における本質をつくる授業の創造と一層の充実改善について

○生徒

- ・(中)家庭学習の習慣が定着するように指導されている。(2015:3.4→2016:4.1)
- ・(高)特色ある教育(知的財産教育・高校現代文明論など)が充実している。(3.8→3.8)

○保護者

- ・(中)子どもは、家庭学習記録に関して、学習記録帳・iPadを活用している。(3.2→3.6)
- ・(高)子どもは、授業を通して学力が向上している。(3.4→3.3)

○教職員

- ・(中)教員は授業に関して創意工夫(教育のICT化等)を行なっている。(3.8→4.2)
- ・(高)教員は生徒の学習意欲向上の為に工夫・努力を行っている。(3.4→3.6)

【分析】タブレット(iPad)を活用した授業を試行実践する等の新しい形態の授業への取り組みに対する評価は、中等部生・教職員から評価されている。高校にもタブレットが段階的に導入される次年度以降の参考の為に具体的な評価点を精査していく必要がある。

(2) 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について

○生徒

- ・(中)学校の特色(コース制・中高一貫教育など)に満足している。(3.8→4.1)
- ・(高)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)の教育環境に満足している。(3.9→3.8)

○保護者

- ・(中)仰星高校の教育内容(コース制・類型別)をよく理解している。(3.5→3.6)
- ・(高)学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(3.8→3.9)

○教職員

- ・(中)施設(校舎やグラウンドなど)の教育環境が充実している。(2.7→2.7)
- ・(高)設備(PC・空調等の備品関係)の教育環境が充実している。(3.7→3.5)

【分析】施設(校舎やグラウンドなど)や設備(PC・空調等の備品関係)に対する教職員からの評価点が低い傾向がある。進路指導に欠かせないPC・タブレット等の整備については、年度を追って段階的に増やしていく計画を実行中である。

(3) 東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上について

○生徒

- ・(中)東海大学についての情報がよく提供されている。(3.4→3.5)
- ・(高)進路に関する情報が十分に提供されている。(3.7→3.8)

○保護者

- ・(中)東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.5→3.7)
- ・(高)学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(3.9→3.8)

○教職員

- ・(中)仰星高校への進学指導ができています。(3.8→4.0)
- ・(高)生徒の適性に合わせた進学指導ができています。(3.7→3.7)

【分析】生徒の適性に合わせた進学指導が概ねできていると考えられる。

(4) 自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について

○生徒

- ・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→3.8)
- ・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→3.7)

○保護者

- ・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.9→3.9)
- ・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→3.8)

○教職員

- ・(中)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(3.9→4.6)
- ・(高)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(3.8→3.9)

【分析】生徒・保護者・教職員とも文武両道の校風についてはよく理解できていると考える。

(5) 生徒募集事業と広報推進のための各種事業の充実について

○保護者

- ・(中)ホームページ(Gyosei 日記含む)、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(4.2→4.2)
- ・(高)ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(3.7→3.8)

○教職員

- ・(中)生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.7→4.0)
- ・(高)生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.7→3.5)

【分析】生徒募集の広報活動について、中等部教員の評価は昨年度に比して上昇したが、高校所属の教職員による評価は下降した。

(6) 環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて

○生徒

- ・(中)学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(3.8→3.8)
- ・(高)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)の教育環境に満足している。(3.9→3.9)

○保護者

- ・(中)施設・設備等の教育環境に満足している。(3.8→3.5)
- ・(高)施設・設備等の教育環境に満足している。(3.8→3.7)

○教職員

[第1回:平成29年1月24日]

○(1) 学習指導における本質をつくる授業の創造と一層の充実改善について

- ・昨年度から、教員の授業力向上を目指して、年3度の「授業見学週間」を設け、教科を問わず他教員の授業を見学する機会を持っている。見学後はコメントシートを作成し、全員で共有できるように保存するようにしているが、この取り組みがどの様に各教員の授業力向上に役立っているのかを測る必要がある。新しい取り組みに則った評価ができる質問項目になるように、現行の質問項目を抜本的に改める必要がある。
- ・次年度からタブレットを用いた授業が本格化する。そのための研修が盛んに行われていることは評価したい。

(2) 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について

○施設(校舎やグラウンドなど)や設備(PC・空調等の備品関係)に対する教職員からの評価点が低い傾向があるが、経年劣化の為にやむをえない部分もあるのではないかと。無いものや不十分な環境に不満を募らせるのではなく、現状を如何に活用するかに知恵を絞る努力をしなければならないと思う。

(3) 東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上(進路)について

○各コース生徒の適性に合わせた進学指導が概ねできていると考えられるが、更に進路指導の工夫を行う余地はある。

○中等部からの高校への内部進学者への指導を更に懇切丁寧に行う必要があるのではないかと。

○東海大学への内部進学を増やす為に、東海大学のメリットをより強くPRする必要がある。

(4) 自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について

○クラブ活動が活発に行われていることが、全校的に良い影響を与えていると言える。文武両道の大切さを折に触れて生徒に伝えていくことが有効である。

(7) キャリア教育の充実(研究)について

○2015年度より、高校1・2年に対するキャリア教育が本格的に実践されて来た。ダイアログ研修や職業適性検査などを通じて、生徒は自分のアイデンティティーに迫ることが出来ていると考える。2016年度に高校2年生に導入した「企業インターワーク」については、担当担任から様々な問題点や改善案が出されている。これらに真摯に向き合い、キャリア教育をより充実したものに昇華させていくことが望まれる。

[第1回:平成29年2月18日]

① クラブ公式戦参加等の理由で土曜日の授業が抜けた場合の対応について。

保護者:「補習が実施されているクラブと何も行われていないクラブがある。学校としてどう対応するのか考

<p>・(中) 事故・事件・災害時の対応および体制が確立されている。(3.7→4.0)</p> <p>・(高) 事故・事件・災害時の対応について体制が確立されている(3.6→3.4)</p> <p>【分析】生徒が安心して教育を受ける為に必須である事故・事件・災害時の対応等についての教員による評価は高い。</p> <p>(7) キャリア教育の充実について</p> <p>○生徒</p> <p>・(中) 特色ある教育(知的財産教育・総合的な学習の時間)が充実している。(3.8→3.9)</p> <p>・(高) 特色ある教育(知的財産教育・高校現代文明論など)が充実している。(3.9→3.8)</p> <p>○教職員</p> <p>・(中) 総合的な学習の時間の内容が充実している。(3.7→3.8)</p> <p>・(高) キャリア教育を含む独自科目「高校現代文明論」が生徒に理解されている。(3.1→3.1)</p> <p>【分析】生徒・中等部教員による評価が比較的高い一方、高校教職員による評価が低い。</p>	<p>えてほしい。」</p> <p>学校:「クラブ公式戦参加等の理由で土曜日の授業が抜けた場合の授業内容にどう追いつくかについては、生徒が自分で担当教員に聞きに行くことが基本であると考えている。教員が当該生徒に積極的に声をかける必要もあると思う。」</p> <p>② メディアセンター利用について。</p> <p>保護者:「メディアセンターが騒がしくて、自習に集中できないことが多々ある。」</p> <p>学校:「メディアセンターを静かな環境に保つ責任は担当部署メディアセンター室にある。担任も生徒にメディアセンターの使い方を指示する必要もあるだろう。今後の課題であると考えている。」</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導における本質をつくり授業の創造と一層の充実改善	<p>ア シラバスの活用により、計画的で継続的な授業改善に取り組み、教員相互の授業公開・研究授業を行い教科専門的指導力を高める。</p> <p>イ 各教科において定期考査・共通実力テストの妥当性を検討するとともに、外部模試等の出題分析を行い、授業に還元する。</p> <p>ウ ICT関連の授業の充実を図るために、学習会等の研修を実施し授業改善に取り組む。</p>	<p>ア 年間3度の「授業見学週間」を設け、教科を問わず他教員の授業を見学する機会を持つ。</p> <p>イ 各考査後、教科会で同一試験の平均点をクラス比較し、問題の妥当性等を検討する。</p> <p>ウ 年間数回のICT関連教員研修を実施する。</p>	<p>ア “学校の特色(コース制・中高一貫教育など)に満足している。”項目に対する評価点は、中等部生徒対象アンケート(以降JSと略)3.7、中等部生徒対象アンケート(以降JSと略)3.9、高校生徒対象アンケート(以降SSと略)3.8、高校保護者対象アンケート(以降SPと略)3.9であった。</p>	<p>ア・イ・ウ 生徒・保護者による評価は、概ね良好であると言えるが、それぞれ4.0以上の評価を獲得できるように、尚一層努力することが、吸引には求められる。</p>
2 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備	<p>ア 大学入試科目のみへの極端な単位偏重を是正し、グローバル人材の育成および国際バカロレアの理念を加味した汎用的能力を養成する教育課程の見直しを行う。</p> <p>イ これまでの英数特進コース、総合進学の2コースを基にグローバル人材の育成・豊かな人間性の育成の観点から教育課程の改善を図る。</p> <p>ウ 教科指導では、数値目標を達成するために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。</p>	<p>ア 文系科目或いは理系科目偏重であったカリキュラムを是正し、2017年度入学生からの入学生に適應する。</p> <p>イ 文系科目或いは理系科目を幅広く学習できるカリキュラムに改定する。</p> <p>ウ 各考査・模擬試験後、教科会で同一コースの平均点をクラス比較し、問題の妥当性・授業内容が適切に行われているか等を検討する。</p>	<p>ウ “教員は生徒の学力向上の為に工夫・努力を行っている。”項目に対する評価点は、中等部教員対象アンケート(以降JTと略)4.2、高校教員対象アンケート(以降STと略)3.5であった。</p>	<p>ウ 教員による生徒の学力向上の為に工夫・努力に対する自己評価は、中学では高く、高校では低いと言う結果が出た。高校教員は、他教員の授業を見学するなどの研修を通して、より一層授業力を向上させる方法を模索させる必要があると言える。</p>
3 東海大学、国公立・難関私立大学への進学実績の向上	<p>ア 東海大学のオープンキャンパス活用や大学各学部からの講師招聘を通じて、生徒の関心を高める適正な情報の提供を行う。また、他大学見学会や各講演会等を活用して生徒の大学進学へのモチベーションを高める。</p> <p>イ 毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、センター入試、国公立大学二次試験及び私立難関大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。</p>	<p>ア 中等部1年生・高校1年生のそれぞれ全員が東海大学湘南キャンパスを訪問し、大学教員からの講義等を受ける機会を持つ。</p> <p>イ 高校生対象に進路指導部教員が大学入試についてのガイダンスを実施する。また、大学受験に精通した外部講師を招聘し、変化する入試のシステム・傾向についての講義を行ってもらう。</p>	<p>ア “各学年の宿泊行事が充実している。”(宿泊行事の多くが、東海大学関連機関への訪問・実習である。)項目に対する評価点は、JS4.2、JP4.4、“高校現代文明論研修の旅(東海大学関連機関への訪問・実習)[1年生回答]・研修旅行[2.3年生回答]が充実している。”項目に対する評価点は、SS4.2、SP4.4であった。</p>	<p>東海大学関連機関への訪問・実習に対する、評価は、生徒・保護者共に高いと言える。プログラムのより一層の充実に向けて、今後も更に改良できる点がないか等について、担当分掌で検討して行く事が望まれる。</p>
4 自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持	<p>ア 進学校としてのスクールアイデンティティーを確立するべく、部活動を通して生徒の自己管理能力を育成し文武両道であるという意識を醸成する。</p> <p>イ 部活動と学習の両立を確立させるため、成績の相関関係を明確化し部活動との一体化を図る。</p>	<p>ア 生徒の生活態度・成績の変化を担当・クラブ顧問が一丸となって注視し続ける体制をもつ。</p> <p>イ メリハリのある生活態度を維持させるため、勉強への切り替えを円滑にするために、クラブ顧問会議を定例化し時間の有効利用を指導する。</p>	<p>ア・イ “家庭学習の習慣が定着するように指導されている”という項目に対する評価点は、JS3.8、JP3.2、SS3.5、SP3.3であった。また、“学習記録帳を活用している。”項目に対する評価点は、SS2.7、SP2.9</p>	<p>高校生の学習記録帳の活用に関する評価が昨年のSS3.1、SP3.0からそれぞれ下落している。学習記録帳の体裁や記入・活用方法について、再検討する時期かもしれない。</p>

<p>5 生徒募集事業と広報拡張のための 各種事業の充実</p>	<p>ア 本校の存在意義（ミッション）、学校運営方針、教育活動の現状等を内外に周知する。</p> <p>イ 東海大学付属である本校の特色を敏速かつ正確に伝えられるよう新しい情報の提供に向けホームページの一層の改善を行う。</p>	<p>ア 学校見学会や説明会の計画的実施を見直し、外部情報媒体、学校ホームページにそれらを掲載する。PR室と各分掌が連携して体験授業（オープンキャンパス）や本校問題解説会を充実させ、小・中学生が期待する学習内容・方法等を発信する。</p> <p>イ 学校ホームページの見直し、更新を随時行う。</p>	<p>ア “入試説明会など募集イベントが奏功している。”項目に対する評価点は、JT4.3, ST3.7であった。</p> <p>イ “ホームページ（Gyosei 日記含む）、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。”項目に対する評価点は、JP4.2, SP3.8であった。</p>	<p>オープンスクールや入試説明会などのPRイベントに対する、教員の評価は概ね良好であると思われる。</p>
<p>6 環境 ・安全 ・健康に配慮した 学校づくり</p>	<p>ア 生徒が安心して学校生活を過ごすことができる学校環境を整える。</p> <p>イ 教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、生徒の健康を注視し、生徒が安心して学校生活を送れるように努める。</p>	<p>ア 防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価（学校評価）を行う。</p> <p>イ 生徒の実態を把握できるように、学級担任・学年主任・関係分掌が緊密に連携する。また、スクールカウンセラーとの連絡を密に行う。</p>	<p>ア “事故・事件・災害時の対応について体制が確立されている。”項目に対する評価点は、JT4.0, ST3.4であった。</p> <p>イ “保護者との連携（クラブ活動での連携も含む）がなされている。”項目に対する評価点は、JT4.0, ST3.5であった。</p>	<p>アイ項目共に中等部教員に比して、高校教員からの評価が低い傾向がある。受け止め方のさいに関する検討を行う必要がある。</p>
<p>7 キャリア教育の充実</p>	<p>ア キャリア教育プログラムを充実させ、「生きる力（主体性、コミュニケーション能力、協調性）」を養成する。</p> <p>イ 視野を拡大して社会のできごとを理解する力を育み、社会で求められる能力を身につける。</p>	<p>ア 高校1年総合学習「現代文明論」の時間に“ダイアログ研修”や“職業適性検査”を実施する。</p> <p>イ 高校2年生の総合学習として“企業インターンワーク”実習プログラムに取り組む。</p>	<p>ア “高校現代文明論（キャリア教育が実施されている科目）が生徒に理解されている。”項目に対する評価点は、ST3.1であった。</p>	<p>2015年度よりキャリア教育に本格的に取り組んでおり、本校教育の特色の一つとなっているが、未経験の教員も居る為、評価点が低くなった者と考えられる。次年度以降も全校一丸となって取り組んでいく。</p>